
降り六つ輝石の欠片

緋炉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

降り六つ輝石の欠片

【Zコード】

Z6818P

【作者名】

緋炉

【あらすじ】

突然ですが私、神楽坂 氷見は暴走車に轢かれて死んでしまったようです。

そして、「平凡な人生だったなあ・・・」と人生を振り返る余裕もなく、転生しました。しかもファンタジーな世界です。「これは楽しないと損だよなあ～」

平凡な生活を送っていた17歳の少女の転生物語です。完結出来るよう頑張ります。

3月15日までに、第4話の表現内容など一部を修正しました。
大幅な修正ではないので読み直しをしなくても大丈夫です。

プロローグ・突然ですが・・・（前書き）

初投稿です。

妄想力はありますが、文章力があるかどうかは未知数です。とりあえず完結できるように頑張ります。

少しでも楽しんで頂けたら幸いです。

今はまだ無いですが、残酷な描写や15禁と思われる描写が入る事があります。“注意ください”。ただし、入る場合は事前に記します。

誤字・脱字があれば教えて頂けると嬉しいです。

プロローグ・突然ですが・・・

私の1日の始まりは決まっている。

6時起床。私の家族は揃いもそろつて朝が苦手のため、毎朝の食事とお弁当を作る。

6時45分。朝食・弁当を作り終わり、お父さんとお母さんを起こしにいく。ちなみに、2人とも中々起きないわ寝起きの機嫌は最悪だわでいつも苦労する。しかし！何年も同じことを繰り返していたので自然とコツを掴んだ。ポイントは躊躇わずに一気に殺ること！（漢字間違いではありません）

「う～ッ！！あ、愛が痛いよ。ひいちゃん・・・」

「段々と威力が上がってきてるのは気のせいかな？氷見」

今日も朝一番の仕事？を終え、キッチンで朝食を並べていると、お父さんとお母さんが2階から降りてきて開口一番に言った。

「・・・そんなこと言つても2人がちゃんと起きてくれないからでしょ。特にお母さんは一発で起こさないと私が殺られちゃうよ」

一回目覚まし時計顔に投げつけてきた癖に、と私は呆れ氣味に言い

返す。それを聞いてお母さんは唸つた。その時の私の顔の惨状や諸々のことと思い出したのだろう。下手したら虐待を疑われて児童相談所に通報されていたところだ（実際、病院では医師が最後まで虐待を疑っていた）。

「まあ、そんな事よりもう7時だよ。早く食べないと2人とも遅刻しちゃうよ」

私の言葉にお父さんとお母さんは慌てて食卓に着き、朝食を食べ始めた。今日は、弟は中学校が創立記念日で休み。おじいちゃんとおばあちゃんは、昨日から温泉旅行に行つており、かなり楽が出来た。いつもはもう少し早く起きて準備しなければならないのだ。

「んぐんぐ・・・じやあ、私はもう行くからね。食器は帰つて來たらまとめて洗つちゃうから流しに置いておいてよ」

行つてからしゃーいと2人の言葉を背中に受け、梅雨が明けたばかりの空気を一身に浴びながら学校へ向けて出発した。

「あーひーちゃんお早うつ
「朋ちゃん、おはー」

玄関を出たところで幼馴染の浅田朋華とばつたり出くわした。朋華の家は氷見の家の向かいなのだ。

そして今更だが、この物語の主人公の名前は神楽坂氷見と言つ。氷に見ると書いて「ひみ」と読む。

「一緒に学校行こー！」

朋華は癒し系小動物のような愛くるしい顔一杯に笑顔を載せて氷見を誘った。それに氷見は了承の意を返し、待たせては悪いと朋華のもとに急いだ。

キキイツ！――！

「…………え？」

道路に出た所で身体に強い衝撃が走り、次いで浮遊感が私を襲つた。
しかし、状況を把握する前に意識が闇に墮ちる。

最後に何処か遠くで誰かの叫び声が聞こえた気がした・・・・・・

転生したそ�です。あ、両親は美形でした。（前書き）

2話目です。
私生活の合間の投稿なので、ペースはゆっくりになってしまします。
目標は2日に1回の投稿です！

転生したそうです。あ、両親は美形でした。

世界樹【オーリオール】を世界の中心に戴き、そこから北に精靈と妖精族が暮らす大陸・オーブ。東には大小様々な獣人族が暮らす大陸・リガート。南には魔物や魔人などの魔族が暮らす大陸・シン。そして最後に人族が暮らす西の大陸・フィーズ。

北・東・西は の字型に陸が続いており、国によつては頻繁に交流しているところもある。東の大陸は間に広大な海が広がつており、交流は限定的にしか行われておらず謎の大陸と言われている。

この世界は不穏な空氣を孕みつつも絶妙なバランスでまだ表向きには平和を保つていた

世界共通の暦・ユグド暦2010年 ガット月12日の夕方。家々では夕飯の準備をする母親が忙しなく動き、子供達はご飯の匂いに誘われて帰路につく。父親は仕事に疲れた体を引きずつて、家族が待つ家へと急ぐ。

どこにでもある何でもない日常の一風景。その光景を自分の部屋の窓から見下ろす推定2歳の幼児。その顔に浮かぶのは憂いの表情で、僅か2歳（推定）の子供がするようなものではない。

「あう～（はあー・・・やつぱり何度見てもファンタジー）」「

可愛らしい声とは裏腹に、内なる声は成熟した人のそれであつた。綺麗な銀髪に榛色の瞳を持つた可愛らしい顔をした幼児の名前は、シルフィニア・ロンド。精霊族の母親と獣人狼族の父親を持つ種族ハーフである。しかし、母親の血の方が濃かつたのか精霊族の特徴が顕著に表れている（なので、種族的には精霊族と言えなくもない）。その精霊族の1番の特徴と言えるのが銀髪である。そして、2番目の特徴は10歳の成人の儀を終えるまで子供は無性、つまり性別が決まっていないのである。しかし、これは純粹な精霊族の血を引く子供には決まって表れるものであるが、多種族の血が混じった場合は表れるかどうかは半分位の確率である。その代わりであるのか、髪色の方は、精霊族の血を引いていればその特徴が表れる確率の方が高い。

「あうう～（しかも、何が一番ファンタジーって、私が赤ちゃんになつちやつてることだよね・・・）」

そう。何を隠そうこの赤ちゃんことシルフィニア・ロンドは、21世紀の現代日本からやつてきた女子高生・神楽坂 氷見なのである。世の中とは不思議なもので、あの日暴走車に引かれて死んだはずの（生まれてすぐに頑張つて思い出してみた）氷見が、時代どころか世界を違えて生まれ変わってきたのである。ライトノベルなどで俗に言う【転生】である。しかも種族まで変わつていて、さらに今後は性別まで変わつてしまつかもしれないのだ。初めてそれを知つた時には泣いた。それはもう体中の水分を出し切る勢いで泣いたのだ。勿論、それを見たワイルド系美形の父親とキレカワ美人な母親は育児初体験ということもあつてかなり慌てていたのはまた別の話である。

「ん？ シルフィはどうした？」

「まあー！？（おつツ！？びっくりしたな～お母さん）」

窓辺で黄昏れでいて無防備だったところに突然声を掛けられてビクツと体が跳ねる。思わず声まで上げてしまい恥ずかしくなつて、こちらの世界での母親であるコーリーン・ロンドの顔をまともに見れない。

もじもじと視線は下に体を動かしていると又も突然にコーリーンに抱き上げられる。そして、ギューッと強く抱きしめられた。

「ああー！ もうー！ シルフィは可愛いなああ～」
「ばうううー！？（え、え、何いきなり？！）」

氷見ことシルフィはその榛色の瞳を白黒させ、コーリーンを見上げる。そして、思わず「愛しくて仕方ない」と言つた慈愛に満ちた瞳と見つめ合つてしまい数秒固まる。それから、また視線を下げてそもそも腕の中で動く。それをコーリーンはくすぐすと微笑ましげに見つめていた。

この世界に生まれ落ちた当初はかなり混乱し、状況把握も何も出来なかつた。少し落ち着いてきて現状を理解し始めると心の中を占めるのは、もう家族や友人には会えない悲しみとこの世界に一人でいるような寂しさ。その気持ちは現実にも如実に表れていたようで、暗い顔をして元気の無い我が子のことをいつも心配していた両親に罪悪感が湧いてきたが、それでも前世の、神楽坂 氷見の記憶を持って生まれてきてしまったのでどうしようもなかつた。

だが、そんな日が何日も続き、氷見が新たにシルフィとしての人生を生きようと思つたきっかけは、根気強く彼女（無性だが）に話しかけ、惜しみない愛情を与えてくれた両親であつた。元々、長く一

つのことを考え悩むことが苦手であった氷見は『起じつたものはしそうがない。こんな経験一度と出来ないんだから楽しめなきや損だよね』と気持ちを切り替え、幼児生活を楽しんでいるのである。

しかし、楽しむとは言つたものの、あまりにも今までの生活（人とか生活の仕方とか文明とか）と違うので、時には黄昏れてみたくもあるのである。今はまだ、幼児であるから外に出ることは出来ないが、早く自分の足で外を見てみたいものである。

「や、そろそろジオも帰つてくるから2人でお出迎えしましょう。今日は、ナツの葉とグイルの肉で作ったスープだからね」
「あああ！？（まじですか！？お母さん！…）」

こちらの世界の食事の中で一番の好物の名前を挙げられ、俄然テンションが上がるシルフィにコーリーンは笑いつつもホッとしていた。部屋に入ってきた時にしていた表情を見て、また生まれたばかりの頃のようになつてしまふのかと危惧していたからだ。

そして、2人は良い匂い漂うキッチンに向かい部屋を出て行つた。

こんな感じだけど、毎日楽しくやつてます。もう一度と会える」とはないけど、皆も元気に過ごして下さい。

あ！私の新しい両親はワイルド系美形のへたれさんとキレカワ美人のクーデレさんでしたよー！

転生したそりです。あ、両親は美形でした。（後書き）

誤字脱字がありましたら、どうぞ教えて下さい（^ ^）

絶賛幼児期満喫中　ソリで少し情報整理します。（前書き）

あけましておめでとうございます。

年が明けました。今年もどうぞ宜しくお願ひします。

久々に入つてみたら、お気に入り登録がされてあつてとても驚きました。

有難うござりますーー！

課題の一つが片付いたので3回ほどは連続投稿できると思います・・・
早く話を進めたい・・・。

2話目の矛盾を修正しました。

読み返さなくとも問題ありません。

絶賛幼児期満喫中　ここで少し情報整理します。

皆さん、こんにちは。

現代日本から異世界トリップ＆転生をしてしまった、元女子高生・神楽坂　氷見です。

先日、サンライ月3日に私は8歳になりました。早いもので私がこの世界に来てから、もう8年も経つたんですね。。。　（時間が経つのが早いとか言わないで。自覚します。。。）

ここで一旦、この世界の情報を整理しようかなと思います。

まず暦はユグド暦。

これは、この世界を創った創造主・ユグドライネの名前から付けられている。そして宗教もこの主神・ユグドライネを冠するユグド教が世界で一番大きい。これには種族や大陸は関係ないようだ（しかし、魔族の国であるシンは除く）。

次に日付や時間の形態は元いた世界と変わらなかつた。違う点を挙げるなら、閏年が無いことと1カ月がきつちりと30日だけだとう点である。そして月の読み方は・・・

ガット月（これが元の世界の月の1月に当たり、以降順に月に当てはまつていく）から始まり、ジス月・コラール月・クオーパ月・ジード月・サンライ月・リアン月・ニクス月・アイオ月・オーパ月・シリンド月・タイズ月となる。

次に種族だが、種族は大きく分けると人間・精霊族・獣人族・魔族・

神族の5つである。この中では人間が一番数が多く、神族が一番少ない。獣人族と魔族は人間の1～2割ほど少なく、精靈族は人間の半分ぐらいの数しかいない。人間と神族は種族的に一種類しかないが、精靈族は妖精族・樹聖族・聖獸族と4つに分かれる。獣人族は、狼族・虎族・蛇族・蟲族・草族の5つに分けられ、魔族は魔獸と魔人の2つに分けられる。

そして、ここからがとても重要なことになる。

この世界には魔法があり、この世界に暮らす人達は全て平等に魔力を持つて生まれてくる。しかしその魔力の量は平等ではなく、魔力が大きすぎて暴走させてしまう人がいれば、魔力を感知できるかどうかのギリギリの量しかない人もいる。

魔力の量というのは潜在的なものが多く、基本的に修行しようが悟りを開こうが量は変わらない（一部例外的に量が変化する者がいるが、それも何十年に1人いるかいなからしい）。

だが、そんな魔力量が少ない者でも魔力を大量に消費する大きな魔術を使用することが出来る場合がある。

それが、【キララ＝キラ（輝石の子供）】の持つ輝石^{いし}を使った魔術行使だ。

輝石とは、それ自体が属性を持ち、魔力を内包している石のことだ、見た目は宝石のようにキラキラと輝いている。輝石は、属性ごとに色が分かれしており、水属性なら蒼玉・風属性なら翠玉・土属性なら黄玉・火属性なら紅玉・光属性なら石英玉・闇属性なら黒曜石という風になっている。形も大きさも持つて生まれてくるキララ＝キラによって違い、内包している魔力量も違っている。つまり、魔力を多く内包している良質な輝石を持つていれば、自身の魔力と併せて大きな魔術も行使出来るのだ。魔力を多く内包している輝石は大きければいいというものではなく、属性色が強く出ており、また透明度も高いものが魔力を多く内包していると言われている。

さらに輝石は、その石が持つて いる属性の魔法しか使えず、輝石は 1つにつき1属性しか持つ事が出来ない。しかし、輝石の中には使 用者の意思によつて属性を変えられ、また内包される魔力も他の属 性輝石とは比べ物にならない程である（ちなみに、輝石に内包され る魔力量はキララ＝キラ自身の魔力量に左右されない）。

その輝石の名前は

【金剛石】

いまだその輝石を抱いて生まれてきたのは世界に2人しかいない、 最強の石である。

あちらの世界ではダイアモンドの名前で親しまれ高価だつた、透明 な宝石。面白い偶然であるが、あちらでも金剛石は世界で一番堅く 最強な宝石と言われていた。

その輝石は1つ手に入れるだけで莫大な富を手に入れる事が出来る と言わされているほどで、人々はその石を生み出す事が出来るキララ ＝キラを喉から手が出るほど欲している。また、金剛石だけでなく、 良質な輝石を生み出すキララ＝キラはそれだけで多くの人々から狙 われる存在だ。生まれたばかりのキララ＝キラを拉致・誘拐するな どして金持ちなどに売買することは全大陸において珍しいことでも ないらしい。

さて、ここまでが私が現時点で手に入れた情報です。本当はもっと 細かい情報が欲しいんだけど、私はまだ8歳になつたばかりなので、 あまり深く突っ込んで聞いて気味悪がられたり怪しまれたりしたら 困る（つていうか嫌）なので、いまはまだ、聞ける範囲の情報しか

ないんですよ。

あ。今大陸で金剛石のキララ＝キラは一人だけで、何とかつていう獸人族の王様の第一妃らしいですよ。

あ
でも、今はもう2人になつたんだよね。
何か、私も輝石を持つて生まれてきたんだよね。金剛石を。よりに
もよつて金剛石を！（大事なので2回言いますよ）

他の人達にばれたら、絶対確實に狙われる！

しかも、今は厄介な事情も抱えているつて言つのに・・・・・

私は現在8歳になつたばかり。性別を決める成人の儀までに、男女
どちらかと交わつてしまつたら、男の場合は女に女の場合は男に性
別が決まつてしまい、しかも一生離れられない契約が結ばれてしま
うんですよ・・・・・つօrn

いいいいいいやあああああああああああああつ！心の

叫び

つていうか、何このトンデモ設定は（泣）

成人の儀が終わるまで、この平穏を壊さないで下さいね。神様！！

(あれ？実はそんなに満喫出来てないんじゃつ？！)

絶賛幼児期満喫中　ソリで少しお情報整理します。　（後書き）

今回は下書き無しで書いてしまったので、読みにくい部分や矛盾点
が出てくる恐れがあります（済みません。）
もし、発見したらお知らせください。・・・。

お読みいただき有難うござります。

幼児も楽じゃないです・・・（前書き）

正円に更新が出来るかと思つたら、課題を一つ忘れて・・・慌ててやりました。

どうにか間に合つました；；

まだ不定期亀更新になります。○・△

誤字脱字・文章に変な所があれば「連絡頂けると嬉しいです。

幼児も楽じやないです・・・

こんにちは。神楽坂 氷見ことシルフィ・ロンドです。

前回の情報整理の回で、あまり幼児期を満喫出来ていないことに気が付きました（遅つ）。

でも、美形な両親や威厳たっぷりだけど孫にはデレ甘なおじいちゃんとおばあちゃん、それに優しい村の人達に囲まれて私は幸せで一杯です。

リルテ村

精霊族が暮らすオープ大陸の最西端に位置し、人間が暮らすフィーブ大陸に近く、人間が頻繁に通ることから、この村では精霊族と人間の両方の文化が入り混じっている。村と呼ぶには活気が溢れているがそこまで規模が大きいということはない。人間との交流が頻繁になつたのが約30年ほど前と最近の

事があるので、急激に村の規模を大きくする事は経済的に難しいと難色を示す人達が多かつたため、未だ村と呼ばれるほどの大さしがない。

リルデ村には行商も多く訪れ、村の中心にある通りは連日露天商などが並んで商売するので、人で溢れかえっている。子供は親と手を放すと迷子になる事必至である。

その通りを元気よく駆けて行く7～9歳くらいの子供が4人いた。4人はお揃いで色違いの帽子を被つており、うち2人は肩より長い髪をリボンで一つにくくつている。残り2人は肩につかない程度の長さの髪である。4人の髪色は薄茶でさらさらしている。

「わあー！人があー一杯だよ。すつごいなあー」

「うん。ここまで人が集まつているのを見るのは初めてだね」

「あーあんまり先に行くとはぐれるよー？」

上から順にサイ、ユオ、ザイードである。3人ともシルフィーと一番仲の良い友達である。サイは、本名をサイ＝ゴギオンと言い、4人の中で1番髪が短くショートカットより少し長いくらいである。肌は少し黒めで瞳は焦げ茶色、また4人の中では1番背が高い。次に、ユオ＝フィッシュ。髪が腰の中ほどまであり、今はオレンジ色のリボンで一つにくくつている。肌は白皙の白さを表しており、瞳は赤色で身長は4人の中では一番小さい。そして、ザイード＝エネル。肩より少し短い髪と瞳は海色で肌はユオよりも黄味がかった白色である（シルフィー的に一番日本人に近い肌色だと思つてはいる）。身長はサイより1～2？ほど低いが、彼らの年齢からするとサイもザイードも高身長の部類に入る。

会話からも分かるように、サイは好奇心旺盛で気の向くままに進むのですぐに迷子になり、ユオはそんなサイに引っ張られて進むので

迷子に巻き込まれる。ザイードは、そんな2人を諫めて方向転換させるお兄ちゃん的位置づけである。

そして、それを微笑ましそうに後ろから付いて歩いて行くのがシリフィである。4人とも精霊族だが、その特徴である銀髪は髪を着用して隠している。精霊族は数も他の種族に比べて少なく、容姿も端麗な者が多いので、こうして出掛ける時は髪を隠して、顔も見えないようにしているのである。そうしないと、人買いや奴隸商人に攫われて貴族などに売られてしまうからである。もちろん、全ての精霊族がそうしているのではなく、成人して、ある程度護身術を身に付けるなどした実力のある者は素の姿のままで外を歩いている。

4人はまだ成人の儀まで1～2年ほどあり、自分を守る術も身に付けていないので完全装備（？）でないとリルデ村への外出許可が下りないので。なぜ外出許可がリルデ村限定なのかと言うと、彼らが住む精霊族の村・セントブルーから近くて大きい村ないし街がリルデ村しかないのである。なので、シリフィ、コオ、サイ、ザイードは時間があり、両親や長からの許可がおりればリルデ村へと遊びに来ていた。

しかし、今日はいつもより行き交う人が多く、大人の波に呑まれて進むのも一苦労である。特に一番背が低いユオは一度大人に紛れると姿が見えなくなってしまうため、手を放さないよう細心の注意を払わなくてはならなかつた。

ちなみに、シリフィを除く3人の容姿はずば抜けており、綺麗・神秘的・美形という言葉がぴったりと当て嵌まる。シリフィも綺麗と言われる容姿をしているが、3人ほどではない。

「今日は村の広場に行こうぜ！」の間の調唄（へたうた）がいるかもしない
しつ

「あーそれ良いかも。『古述英雄譚』の続きが聞きたい！」

サイの提案にシルフィイが同意を示す。そして残りの2人を振り返ると頷きが返ってきたので、4人は早速村の中央に位置する広場に向かつて走り出した。

リルデ村 中央噴水広場

ここは人々の憩いの場となつており、不定期的に大道芸などを行う旅の一団がショーや公演をしたり、吟遊詩人などが弾き語りを行つてゐる。4人が目的としている謡唄いも吟遊詩人の一種である。最近村に来たばかりで、美人で綺麗な声をしていると評判な謡唄いである。

広場に着くと、すでに人だかりが出来ていた。シルフィイ達は子供特有の小さい体を生かして、隙間をすり抜けて前に進んでいく。一番前まで来た4人の目に、噴水の縁に腰かけた灰色の長髪を後ろに流した幼くも綺麗な顔をした女性の姿が飛び込んできた。彼女の手にはハープを小さくしたような楽器が握られており、シルフィイの前の世界で言つ岩場で唄う人魚のような幻想的な姿だった。ただ残念なのは瞳を閉じているので、あの綺麗な新緑のような翠が見れなかつたことだ。

丁度今から唄い始めるらしく、4人は他の人達と同じように静かに
謡が始まる時を待つ。
暫くすると、彼女が口を開き謡が紡がれる。

これは猛き白き者と哀しき黒き者のはなし

地上にて多くの神々と人が交流せし時代

彼の者 異世界より来たりし黒き者

神星帝國の精靈姫に導かれ

強大な力を持ちて この大地に降り立たん

神聖帝國の神子姫 彼の者の姿を見て魔の者と断じる

神聖帝國と神子姫 天上神の力をかりて終焉の大地に追い立てん

神星帝國と精靈姫これに抗う 彼の者の力凄まじく神聖帝國と神子
姫これに為す術無し

神子姫 天上神と大神子の助けを得て遠き地より白き者を喚び出さん

白き者 その強大な力を持ちて 彼の者を封じる

黒き者を封じし終焉の大地 魔の物集いて黒き者と共に眠る

白き者、黒き者が再び目覚めぬよう 黒き者に加担せし精霊姫を使い封印の楔を大地に打つ

楔の名オーリ・オール

オーリ・オール外れし時 黒き者再び目醒めこの世界を破滅へと導かん

謡が終わり、楽器の余韻が消えると人々は拍手喝采で少女の前に置いてある箱に路銀を投げ入れていく。中にはリクエストやアンコールを強請る者もあり、ちょっととした騒ぎになっていた。

シルフィイ達4人も箱に路銀を入れてからその場を離れる。はぐれなりよう4人手を繋いでいた。

「すごく綺麗な声だつたね~」

ユオが興奮したように話す。サイドザイードも同意するように刻々と頷く。しかし、シルフィイは唄声の綺麗さより内容の方が気になつていた。

『異世界から喚ぶつて・・・もしかしてあのラノベとかでテンプレの召喚術つてやつ?え、まさかの異世界つていうのは私が元居た世界だつたり・・・・?』

自分の考えを少し突飛かな?と思いつつ、シルフィイは他の3人の会話に時々加わりながら、あの謡唄いが唄つた内容をもつと詳しく知ることが出来ないかと考えにふけつっていた。

幼児も樂じやないです・・・（後書き）

読んで頂き有難うございます。

中途半端で済みません；；

早く次話投稿できるよう頑張ります！

2011年3月12日 加筆修正

古述英雄譚について調べてみましたが・・・・・・（前編）

読んで頂き、有難うござります。

2ヶ月の放置申し訳ありません。rz
次話は金曜までに更新したいと思います。
不定期＆龟更新で済みません；；

誤字脱字などがあればお知らせください！

古述英雄譚について調べてみましたが・・・・・・

リルデ村を訪れてから数日が経つた。

調唄いの唄を聴いてから、いつも行く屋台でラキッショ（クレープに似たもの）を買って、それを食べながら村を一周した。やはり人がいつもより多かったため、一度はユオと逸れてしまった。しかし、「逸れた時は此処に集合！」と決めていた建物に行けばすぐに再会する事ができた。

一通り村を回つて遊んだら、もう辺りは薄暗くなっていた。リルデ村で露天商は片づけに働きに出ていた男性や遊んでいた子供は家に帰り始めていた。

その前世で言う帰宅ラッシュの中を4人で駆け抜けて帰宅の途に着いた。予定より少し遅れての帰宅だつたため、家に着いてすぐに怒られたのは苦い記憶だ。

シルフィイは家の手伝いや勉強の合間に、この間調唄いが唄つていた『古述英雄譚』について詳しく調べる事が出来ないか色々と模索していた。しかし、今の所有益な手掛かりは掴めていない。

「（はあ）・・・）やつぱりそつ簡単にはいかないか

落胆が色濃く出た顔を隠そともせず、シルフィイは家にある書物庫から外に向かつた。書物庫とは言つてもそこまで広くはなく置4畳分位しかない。そんな部屋に詰め込めるだけ詰め込んだ書物たちはいつ崩れてもおかしくない程うず高く積み上がつており、書物を読んでいてもいつ倒れてくるかハラハラドキドキしつぱなしであつた。しかし、2日かけて読破したシルフィイだが、そこに古述英雄譚に関する有益な情報は見つからなかつたのだ。今の落胆振りもいた仕方

ないというものである。例え歳相応ではなくとも今回も見逃して頂きたい。

『この世界では黒つて魔の者が纏う色つて言われてるんだよねえー。
・・まんマラノベのテンプレだよね。しかも異世界で黒つて言えれば
日本人っぽいし?でもその後に出てくる白い人つてどこの出身よ?
こっちもテンプレ的に属性魔力が光だつたからとか安易な考え方
だつたりして・・・』

それも大いに有り得そうだと苦笑するしかなかつた。結局今の段階
では推論の域を出ないが、もしこの推論が真実であった場合、その
黒き者は魔の者が住む大陸・シンに封じられているのだ。

そしてその封印を成し得ているのがこの世界の大陸の中心地にある
オーリ・オールなのだ。

しかもこれは只の御伽噺おとぎばなしではなく、史実に基づいて創られており、
その時の事は記録水晶（声や映像を記録しておくもの。ビデオカメ
ラの魔法版のようなものだ）に記録されているらしい。しかもどう
いう原理かは分からぬが、それは何千、何万年と経つた今でも色
褪せることなく声と映像を記録し留めている。

前世ではそれなりにファンタジー小説等を読んでいたことのあるシ
ルフィーからしてみればお決まりとも云える展開であつたが、第三者
的な位置から読む分にはいいが、実際にそれが身近（といつても過
去の出来事であり体験したわけではないが）にあるというのは何と
も気分が悪かつた。

封印の楔であるオーリ・オールにも黒き者に加担したと言われてい
る精靈姫と言う人が使われているのだ。まるで人身御供か人柱のよ
うだと嫌悪感を抱いてしまつた。

そのお陰で今の平穏があるのだが・・・そこは前世の記憶がある
弊害と云おうか。どんなにこちらの生活に慣れたといつてもこれば

かりはどうにもならないと思つた。

確かに前世においても過去には豊作や、自然災害を神の怒りとしてそれを鎮める為に村の若い生娘を生贊として神に捧げたりしていた。だが、それはすでに過去の出来事であつて現代日本でそういうことをしたならば厳しい批判やバッシングの的になつてゐるだろう。さらには、警察に捕まり、法で罰せられるのは必至である。しかしこの世界では、そういうことが当たり前として傍にあつた。シルフィイはまだ現代日本人としての感覚が強く、そういうことに慣れていないと慣れたいとも思つていなかつた。

「（まあ、今はそんな事を言つてもしようがないんだけど……）
とりあえず、後ちょっとで成人の儀だし、それまで何も起こらない
といいなあ。」

因みに成人の儀は11歳～12歳の間で行われる。成人の儀は、性別が変化するという事もあり、肉体的にも精神的にもかなり負担がかかるものらしい。そのため個人の成長速度等も加味して決められ、皆で一斉に行うという事はあまりないらしい。しかし、今の状態でみると、シルフィイ・ユオ・サイ・ザイードの4人は一緒に成人の儀を迎えるとの事であった。

現在8歳のシルフィイ達は、3年後のタイズ月に成人の儀を行う予定である。これは確定ではなく、状況によつて変動するらしい。何もなければ予定通り行われると昨日おじいちゃんが言つていた。

「“何もなければ”つて言わると何か起こる前兆なんじゃないか
つて思つちやうのは私だけかしら？」

とりあえず成人の儀が終わるまで何もない事を神様に真剣に祈つて
おこうと固く決意しました！

まあ・・・そう言つても結局は“何か”は起るんですけどね
！（号泣）
だつてそれがテンプレですからッ！-！-

古述英雄譚について調べてみましたが・・・・・・（後書き）

3月16日 ジル「月 タイズ月に修正

成人の儀までの彼は？～半年前～（前書き）

何とか仕上げられました。

次話は明日も投稿出来たらいいなとこつ感じです。明日出来なれば、24回辺りになります。

昨日初めてアクセス数を見て、こんなに読んで下さっているんだと驚きました。

凄く嬉しいです！

読んで頂き有難うござります。

成人の儀までの彼是？～半年前～

古述英雄譚こじゅつえいゆうたんについて調べ始めてから3年程が経つた。

未だに進展もない現状にやきもきしつつ、先月ジエード月の29日に8歳だったシルフィは11歳になった。成人の儀まであと半年となつた今日この頃（現在はサンライ月の7日で成人の儀はタイズ月の18日に行われる予定である）。

成人の儀が間近となつたため、シルフィ・サイ・ユオ・ザイードの4人はそれなりにバタバタと慌しい1日を送っていた。

というのも、精霊族の成人の儀では、この世界の創造神であるユグドライネに対して祈る祈りの言葉きか 通称：祈歌きか と言われているもの を複雑な動きに合わせて紡ぐという習わしがあるのだ。しかも、その動きというのが1人なら1人用の、2人なら2人用のといった成人の儀を行う人数に合わせて違つてくるのである。

今回成人の儀を行うのは、シルフィ達4人を含めた7人と人数が多いので（今回成人の儀を見送つたのは5人とこちらも多い）、1人1人それぞれの役割である動きを完璧に覚えたとしても、それを合わせて一つの動きにしようとするのは中々根気のいる作業であった。

因みに、成人の儀でどのようにして性別を決めるかというと・・・。

- ・これは創造主であるユグドライネに祈歌を紡ぎ、それを聞いたユグドライネが祈歌を紡いでいる者を1人1人見てその者に合った性別を与えるらしい。そして、成人の儀を終えた者は、一晩かけて徐々に身体が変化し、太陽が昇る頃には完全に身体が出来上がつているようである。

しかし、過去の文献の中にはユグドライネが性別を決めかねて、両性であつた者もいたようである。これは死ぬまで両性のままなので

はなく、成人の儀が終わって生活していく中で、何年もかけて徐々に片方の性が強く顯れて最終的にはどちらか一方の性に落ち着くらしい。

また、両性となつた者は不便な思いをするが、それを申し訳なく思つたのかどうかは定かではないが、ユグドライネから【祝福】といふ形で何らかの恩恵を受けるらしいのである。それが何であるのかは分からぬが、噂では強い魔力や最強の身体能力、失われて久しい古述魔法の一部等といった他人にばれれば拉致フラグが立ちそうなものであるらしい。

実際には、性別が決まつていらない無性の状態であつても、個人の性格や気性、顔の造形等からある程度どちらの性になるかは判別できるらしい。なので両性といふのは滅多に顯れないようである。文献に載つていた両性についての記述も、過去には5人しか両性となつた者はいなかつたらしい。さらに、その両性となつた5人も成人の儀から10年以内には、性別が決まつてゐるようである。

「だから心配する事は何もない。成人の儀は無事に終わるよ。」

その話を成人の儀で行う動き 通称：舞祈ぶきと言われているもの

を7人全員で練習している合間にシルフィの父であるジオラルド・ロンドは、成人の儀について話し終えると、不安そうにしているシルフィ達に向かつて安心させるように微笑んで言つた。普段、滅多に表情を動かす事が無い彼の優しげな微笑みに、実子であるはずのシルフィも顔を赤く染めた。そして心中で「お母様も、お父様のこの表情かおにやられたんだな」と確信した。それ位、彼の微笑みは威力抜群だったのである。さらに、「こうも思つた、「お父様は無自覚天然たらしだ！」と。

ジオラルドの話が終わってから暫くして、また練習を開始し、ある程度動きが合ってきたところで今日の練習は終了した。

明日は全員での練習はなく、午前中は個々で祈歌の練習をする事になり、午後からはシルフィ達4人は集まってセントブルー村の近くにある森の中の湖でピクニックをする事になったのである。久々の休暇なので、特にサイがウキウキとテンションが高い様子で、それを落ち着ける為に言ったザイードの言葉にテンションをどん底まで落とされるという姿が見られた。それをシルフィとコオが苦笑しながら見守り、ピクニックに持っていくお弁当の中身は何かを話していた。

「それじゃあ、また明日ね！」

シルフィの言葉に返事を返し、それぞれ美味しい匂い誘われるようになに帰つて行つた。

成人の儀までの彼は？～半年前～（後書き）

短くて済みません；；

感想＆誤字脱字大歓迎です！

成人の儀までの彼は？～3ヶ月前～（前書き）

こんにちは。

読んで頂き有難うござります。

何とか今日に次話を投稿できました。
楽しんで頂けたら幸いです。

成人の儀までの彼是？（～3ヶ月前）

成人の儀まで残り3ヶ月となつた今日この頃……皆さんいかがお過ごしでしょうか？

私達は毎日毎日、襤襷雜巾のようになりながら成人の儀を成功させるために頑張っていますよ……ええ……モチロンガンバツテイマスヨ（遠い目）

「えっと……シルフィちゃん大丈夫？」

ユオが明後日の方向を向いて遠い目をしながら何かに語りかける姿を見て、恐る恐るシルフィに声をかけてきた。そんなユオに、シルフィは苦笑しながら「大丈夫だよ。」と返した。

成人の儀の為に練習を重ねて大分日が経つが、未だに一度も成功していない事が一つだけあった。

「……難しそうなのは、（泣）精靈族の古代語って舌噛んじやいそうになるよ。」

「ふふ。でも儀式の最初の【口上】と最後の【締め】には絶対に必要な事だし。それにシルフィちゃんは古代語が分からないんじゃなくて発音が出来てないってだけなんだから、もうちょっと頑張ろうよ。」

「そうそう。発音はまだ僕達だってあんまり上手く出来ないんだからよ。」

ら、そう悲観する事もないと思つよ？……一番危ないのは、古代語を理解できないサイだよ。」

ユオとザイードに慰められながら件の『一番やばい』サイの方に視線を向けると、某アニメ漫画の主人公のように白く燃え尽きていた。そう。成人の儀の一番の難所とも言われる【口上】と【締め】の精霊族に伝わる古代語の発音が何度も言つても成功しないので焦つてゐるのである。因みに、古代語を見てそれを現在の言葉に訳すのはそこまで難しくなかつたのだが（約1名はそこで躊躇つてゐる）、それを声に出して読むとなると、発音が難解すぎて上手くいかないのである。

実は、この事を知らされたのは7人での舞祈が初めて成功した2日後であった。初めて聞いた時は寝耳に水でかなり驚いた。それからは、今回成人の儀に参加する全員が一心不乱に精霊族の古代語と格闘しているのである。

「むう～」？
？
？ ？
？ ？
何とか言えるようになつたけど·····。
「それだけでも進歩じゃないか。僕はまだそこまで完璧に発音できないよ。」

うんうんと唸るシルフィにザイードが苦笑しながら応えた。

この古代語は成人の儀以外では使う事があまりないので（極稀に公の儀式の場でユグドライネに語りかける時に使う事があるが）、大抵の精霊族の者は、成人の儀の一回限りなのである。そう考えるとまだましかなーと気持ちを入れ替えたシルフィはまた古代語と読み方が書いてある紙と格闘しだした。

それを見たザイードは、「じゃあ僕も頑張ろうかな。」と言つて、シ

ルフイが持つているのと同じ紙に視線を落とした。その際に、チラツとサイの方を見ると燃え尽きたサイを必死に慰めるユオの姿が見えた。それに呆れを含んだ苦笑を溢しながら、古代語に集中していく。

成人の儀まであと3ヶ月あるとは言え、それまでにこの古代語を完璧に発音できるかと言えば、ここにいる誰もが首を横に振るだろう。実はそれだけ切迫した状況なのだが、それでも自分の事より他人を慰める事を優先しているユオは優しいというよりお人好しと言えるだろう。

ユオの必死の慰めにもノロノロとしか反応を返さないサイを見たザイードは嘆息して椅子から立ち上がる。そして、サイの後ろに回るとその頭を思いつきり殴つた。その時「ゴンッ！」と凄くいい音を聞いた周りのシルフイ達は無意識の内に手で頭を押された。

「いい加減ウジウジウジウジ鬱陶しいよ？ ユオだつてまだ覚えなきやならない事が沢山あるんだから、サイに構つてる時間なんて本當はないんだよ。それなのに今！ サイを！ 優先してるんだよ！ ？ 申し訳ないとか情けないとか思わないわけ？」

「・・・・・・」

「だつても明後日もない！ つべ言わずにさつさとやれつ！！」

ザイードはもう一発サイの頭を殴つて少しそつきりしたのか、爽やかな笑顔を浮かべていた。そしてその笑顔のままユオに自分の事をするように促す。ユオは小さく苦笑して、サイから離れるとシルフィの前の椅子に座つて古代語を読み始めた。

その姿にザイードも満足げに微笑み、もう一度サイに視線（という名の一睨み）をやるとシルフイの横に座つた。ザイードが座る時にシルフイは彼と目が合つたので笑いながら「流石お兄ちゃん。」と言葉をかける。

実はこの4人の中ではザイードの誕生日が一番早く、ユオが一番遅い。サイとシルフィは同じ月で日にちはサイの方が早い。その為かザイードは凄く面倒見がいい（と言つより兄貴肌）のだ。

「本当、手のかかる弟妹だよ。お母さんは放任主義だし？」

「え？！お姉ちゃん通り越してお母さん？」

「シルフィは僕のお姉ちゃん像に当て嵌まらないよ。」

くすくすと笑いながら古代語に視線を落としたザイードに傲いシルフィも古代語を覚える為に集中する。本当はもっと言いたい事があったが今は古代語を覚えなければならぬので、それらの言葉を飲み込んだ。

成人の儀まであと3ヶ月

成功するかどうかは実はサイの古代語にかかっているんではないかと、サイ以外の6人全員が思つた日だった。

成人の儀までの彼は？～3ヶ月前～（後書き）

感想＆誤字脱字大歓迎です！

今回の話の中で出てくる精霊族の古代語は、グーグル翻訳で検索したギリシャ語を使用しています。異世界の言葉と言うのが上手く思いつかなかつたので・・・済みません；；

今後もそちらを使用しようと思っていますので、それについてのご意見等もありましたら宜しくお願いします。

成人の儀までの彼是？～人間側～（前書き）

お久しぶりです…

読んで頂き有難うござります。

間が空いてしまって済みません。o_rz

成人の儀までの彼は？～人間側～

人間族が住む大陸・フィーズ

その大陸で精霊族等が住むオープ大陸が最も近い所にある国の城の中。

白亜の巨城というに相応しい城の周りは段々畠のよくな土地が広がっている。城に一番近いのは国の重臣や有力貴族の住居である屋敷が建つており、一段下がった場所には中小貴族の屋敷と貴族御用達の高級店、その下には一般庶民の住居と商店や市場が建つてている。そして、城から最も遠い土地は低層民街スラムとなり、低所得者や奴隸、亜人種等が住んでいる。その、ギリギリ低層民スラムを囲い込んでいるのが城と同じ材質の石を使って建てられた堅固な外壁なのである。しかもその外壁には、大小様々なキララ＝キラ（輝石の子供）の黄玉（土属性）が埋め込まれており、ちょっとやそつとの攻撃では崩れない造りになつてている。城の周りを囲つている城壁も堅固な造りとなつてているが、それよりも堅い強度を誇つてているのがこの外壁なのである。

この国の主な産業は輝石いしの生産と医療である。城の西側にある広大な森には豊富な薬草が年中枯れることなく群生しており、身分等に関係なく年齢によつて教育を施すように法によつて制定しているこの国では、15歳以上の者なら一般的な薬草なら見分ける事や煎じて薬を精製することが出来る。

これは、6代前の国王が立案・制定した事で、これにより他国からは考えられないくらいの識字率を誇つてている。『学は時にはどんな

武器にも勝る』とは、当時の国王・カーネリアン＝ガット・ドウ＝ドウリアラスが言った言葉で、その当時は領土や霸権争いが盛んで、3日と空けずに必ず何処かで戦争があるような時代であった。そんな中、武闘派でもあり学にも明るかつたカーネリアン＝ガット・ドウ＝ドウリアラスは戦争による本国の惨状を見て、戦争が如何に無意味であるかに気付き、即口に本国周辺で起こっていた戦争を終わらせ、復興を目指した。

その時に、国を豊かにするのは武ではなく学であると考え、学費等は国が保障するとして、国民に1-8歳以下の子供を学校に通わせるよう促したのである。初めは反対もあつたが一般市民や低層民からも優秀な者が出てくるなど徐々に成果も出始め、その者達が政治や商業等の分野で頭角を現した事もあり、時間をかけてその政策は周囲の人間に認められていった。

そしてこの国のもう一つの産業である輝石の生産とは、この国のキララ＝キラ（輝石の子供）の出生率が非常に高く、外壁にふんだんに使われている黄玉も自国の子供達からの提供によるものだ。なぜ、この国におけるキララ＝キラ（輝石の子供）の出生率が高いのかは解説されていないが（他国からこの国に移住してきた人も出生率が高いからだ）、精霊族等が住むオープ大陸に近いからではないかと言われている。

本国の国民はこの国と王侯貴族を誇りに思い、他国民からは羨まっていると共にその勢いを恐れられている。

その国の名前は メイザ・ドウリアラス

別名『神に祝福を貢えられし国』と言われている。

そんなメイザ・ドウリアラスの象徴である白亜の城・ドゥーラン城

の一室では3人の男が重苦しい空氣の中話し合っていた。

広い室内の真ん中には、重厚な橢円形の形をしたテーブルが置いてあり、上座には壯年の男性が座っていた。ロマンスグレーの髪を後ろに撫でつけ、歳を感じさせないがつしりと鍛えられた身体は他者を圧倒せる貴祿が感じられる。若い頃はさぞ数多の女性を虜にしたであろう、歳をとつても衰える事のない寧ろ大人の男の渋さを滲ませている秀麗な顔立ちの美丈夫は名前をウイリシアル=ベイ・ドウーサ=ドウリアラスと言い、メイザ・ドウリアラスの第27代国王である。

そして、彼の隣にいるのはウイリシアルとよく似た顔立ちの、これまた現在進行形で多くの女性を虜にしていそうなチヨコレート色の瞳の美青年であつた。ダークグレーの髪をウルフカットにしており、後ろは肩より5?程の長さがある。鍛えている身体はがつしりと、しかし余分な筋肉は付いておらず見た目はすらつとした細身である。彼の名前はヘリオトロープ=ベイ・ドウーサ=ドウリアラスと見てこの国の第1王子である。父親であるウイリシアルは濃紺の、上着が腰より少し長い軍服のような形の服を着ている。上着の中は白いシャツに黒いネクタイをし、上着の上からこれまた黒い太めのベルトを巻いているおり、肩から赤いマントを付けている。因みに、靴は黒いブーツである。ヘリオトロープもマントはしていないが、同じ形の服と靴を着ているが、こちらは少し光沢のある黒色である。また、ウイリシアルはたれ目だがヘリオトロープはややつり上がった形の目をしているのできつく見られがちだが、瞳がチヨコレート色をしていることによつて「寧ろそこがいいのつ！」と豪語するお嬢さん方が多数いる。

そんな2人の正面に座つているのは、耳に掛かる位の栗色の髪と同色の理知的な瞳をしたこれまたヘリオトロープと同じぐらいの美青年である。彼の名前は、アイオライト=トゥールース=バレッタと言いメイザ・ドウリアラスでも有数の上流貴族であるバレッタ家の

次男であり、王大使直属近衛騎士団隊長をしている。ヘリオトロー
ブとは乳兄弟で幼馴染という気心の知れた間柄である。公の場では、
お互いの立場を理解しているので、それに合った態度を取っている
が、普段は掴み合いの喧嘩もするし、言葉遣いもとてもフランクな
ものになる。

彼の格好は、他の2人と異なり踝まであるロングコートのような形
の上着の新緑の軍服で、肩から続く黒く太いベルトを腰に巻いてお
り、そこにレイピアより少し太い剣を腰に佩^はいている。そして、二
の腕には近衛騎士団である事を表す双頭の獅子のマークが刺繡され
ている。

「…………で、最近我が国の国境付近で不穏な動きがあると報告
に上がっていたが、調査の方は進んでいるのか？」

「現在、国境付近にある村や町に隠密を送り込んでいますが、あま
り効果はありませんね。…………ただ、妙な噂が出回っているようで
すが」

「

ウイリーシアルの質問にアイオライトは難しい顔で答えた。手元にあ
る資料は隠密から上がってくる情報を纏めたものだが、それにさつ
と目を通すとある一文で目が止まる。

ノーレスヴィガード

「何でも神の恵み^{ノーレスヴィガード}が届かない地が強硬手段に出るようです。多額の
懸賞金をかけてまだ成人の儀を受けていない精霊族を捕獲するよう
に促しています。懸賞金に目が眩んだ多くの冒険者がオープ大陸に向
かっているようです。この国は一番オープ大陸に近いので、最近の
国境付近の不穏な動きはそれではないかと思われます。」

「まだ成人もしていない精霊族を捕まえてあいつらは何をしようと
しているんだ？」

アイオライトの報告にヘリオトロープ疑問の声を投げかける。それ

に対してアイオライトは「これはあまり知られていない事ですが…」と前置きしてから話し始めた。

「彼ら、精霊族は成人の儀を終えるまでは性別が無い無性の状態で、その状態で合意、非合意関わらず性交に及べば相手に一生縛られる一種の主従契約のようなもが結ばれてしまうようです。しかも、それはどちらかが死ぬまで解けないらしいです。」

「成る程…つまり相手を無理やり犯して、一生を彼の國の為に働かせようと言う魂胆か。精霊族は最も大地の神に近い種族と言われているしな。」

「ええ…また神族に次いで創造主ユグドライネに近い種族であります。彼らには独自の方法でユグドライネから恩恵を受けていると言われています。彼の國の奴等もそこに目を付けたんでしょう。」

そうしてアイオライトは瞳を伏せる。再び沈黙が支配した室内でヘリオトロープは背後の窓から見える広大な森に目を向けた。この広大な森を抜けた先に精霊族が住むオーブ大陸への入口がある。

「アイオライトよ。引き続き国境付近に警戒態勢を敷き、オーブ大陸への入口を最も警戒しろ。また、精霊族の子供が下りてくる可能性のある村に巡回兵を配置しろ。」

ウイリシアルの貫禄溢れる声と命令に椅子から立ち上がったアイオライトは、簡易の礼を返すと急いで部屋を出ていった。これから人員の配置や巡回コースの決定、村長への通達などしなければならない事は山ほどあるのだ。

「リオ。お前は一番精霊族がいる可能性のあるリルデ村に向かえ。精霊族の成人の儀は決まった日程では行つていなかつたが…何か嫌な予感がする。」

「 分かりました。それでは暫くの間城を留守にします。
アイオライトは連れて行きますが、アイオニアは念の為残しておきますので・・・」

そして、ヘリオトロープは父王の前を辞し、城を留守にするにあたつて片づけなければならぬ書類を捌く為に自身の執務室に向かって歩き出した。

吐く息が白くなり始め、本格的に冬が始まつとしているシリンド月の出来事であった

成人の儀までの彼是？～人間側～（後書き）

お楽しみいただけましたでしょうか？

今回は初の人間サイドの話です。今まで一番長くなつてました（あれ？）

連絡

来月から新社会人となるので、色々準備や研修等で更新は出来る時だけという状態になつてしまします。

なるべく今月中に書ける所まで書いてしまいたいのですが、何分遅筆なのでどこまで書けるか分かりません。

しかし、最低月2は更新したいと思っています。なので、今後もうぞ宜しくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6818p/>

降り六つ輝石の欠片

2011年8月9日23時38分発行